せんきゅうのカンザワハダニ（新寄主）

令和６年９月中旬、北海道内のせんきゅうほ場においてハダニ類が多発し、吸汁による葉身のかすり状の白化や加害が集中する箇所には黄化・褐変を生じ、著しい場合には株の生育が抑制される事例が認められた。寄生が確認されたハダニ種は雌成虫では暗赤色、幼虫および若虫では褐色の体色を示し、葉裏に集団での寄生が認められた。採集したハダニ類はせんきゅうを餌として累代飼育が可能であり、吸汁による被害症状が再現された。得られた雄成虫の交尾器の形状からカンザワハダニ *Tetranychus kanzawai* Kishida であると同定された。なお、当該ほ場での発生は既にセンキュウで発生が報告されているナミハダニとの混発であった。10 月に入るとせんきゅう上のほとんどの個体が赤橙色を呈し休眠雌となったことから露地越冬しており、また、ほ場周辺の落葉広葉樹上にも寄生が確認されたことからほ場内外に定着していると推測された。本種は広食性であり、北海道においては畑作物、花卉、野菜、果樹の広範な作目において加害の報告がある。有効積算温度による推定では道内露地で年間５～６世代を経過すると推定される。

（北見農試）

せんきゅうのカンザワハダニ（北見農試　下間原図）